2023年10月15日（日）主日朝礼拝説教

『新しい時代の生き方』　井上隆晶牧師
ガラテヤ6章12〜16節、マタイ福音書9章9〜17節

❶【罪人と同席されるイエス様】

イエス様はマタイという徴税人を弟子にされました。彼に「**わたしに従いなさい**」と言うと、彼は立ち上がってイエス様に従ってゆきました。マタイの家でイエス様と弟子たちが大勢の徴税人や罪人たちと一緒に食事をしていました。このマタイの家は「**教会のひな型**」です。教会とは罪人たちの集まりなのです。聖書には「**同席していた**」（10 節）と書かれていますが、この動詞は未完了形という形であって継続を意味しています。イエス様はこれからも終わることなく罪人と一緒にいるという意味です。神と罪人がこうして一つの家族となりました。**神は罪人の友となって下さいました。私の人生の中で、イエス様がおられない時などなく、罪を犯しても私のことを仲間と呼んでくれたのです。この事は私たちに勇気を与えます。**しかしこれは当時のユダヤ人にとって驚くべきことでした。ユダヤ人は罪人とは一緒に居らず、共に食事もせず、彼らを軽蔑して、見下していたからです。これを読むとイエス様というお方はとても変わったお人だという事が分かります。**イエス様のそばは、罪人たちが安心していれる居場所があったということなのです。**

❷【正しい人は誰もいない。私たちは罪人であり病人である】

ファリサイ派の人々はこのイエス様の行動が理解できません。弟子たちに「**なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか。**」(11 節) と聞きます。これを聞いてイエス様は「**医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。**」（12 節）と言われました。医者とはイエス様のことです。病人とは私たちのことです。医者を必要とするのは、自分が病気であると認めた人だけです。私はいつも常備している薬が何種類かあります。それが切れないように細心の注意を払っています。**この世の薬を一日も欠かせないように、キリストの治療を必要としない日は私には一日としてありません。私は病人だから教会に行くのです。2 世紀のイグナティウスは聖餐の事を「死の解毒剤」といいましたが、病気だからこそイエス様の聖体が必要なのです。**
更に「**わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。**」（13 節）と言われます。これは 12 節を言い換えているのです。イエス様は罪人を招くために来られました。正しい人など誰もいません。皆罪を犯すからです。ただ「自分は罪人だ」と気づいた人と、「けっこう自分は正しい」と思ってる人に分かれるだけです。榎本保郎牧師はこんなことを書いています。

●「イスラエルの人たちは、律法を守るということに一生懸命であった。…それ

は自分が何としても神の前に正しい者になりたい、また、ならなければならないという願い、信仰が彼らにあったからである。…イエスはそういうものを逆転させる方であった。そこに福音の世界、イエスがもたらされた世界の姿がある。それは…もはや人間は神の前に正しくなろうとする必要がなくなったという世界である。なぜなら、神は私たちすべての者の罪を許してくださったからである。」

私たちはいくら頑張ったって善人にはなれません。善人の振りをしていますが、本当の姿は悪人です。**ユダヤ人は「自分は神の前に正しい者だ」と主張しようとしましたが、クリスチャンは「自分は正しい者にはなれなかった」と告白する者でなければなりません。**でも教会は正義を振りかざしているように私には見えます。様々なキリスト教の季刊誌を読んでも、自分たちはまるで正しく、この世と世の人たちは悪だと裁いているように感じます。神が求めるのは憐れみであって正義（いけにえ）ではないのです。(13 節）何かおかしいのではないのでしょうか。

●フィリップ・ヤンシーは『教会～なぜそれほどまでに大切なのか～』という本の中でこんな話を載せています。
「私がＡＡ（アルコホリック・アノニマス＝アルコール依存症者自助グループ）に出席した晩、部屋にいた人たちは皆、赦しと力を求めて神に全くより頼むことを表明する１２のステップを復唱した。…私は友人に尋ねた。ＡＡにあって地域の教会にないものは何か、と。…彼が静かにひと言つぶやいたのは「**依存**」という言葉だった。「僕たちは誰一人自分の力だけではやっていけないんだ。だからこそ、イエス様が来て下さったんじゃないのかい？でも、教会の大多数の人たちは、自分たちは敬虔で優れているというふうな自己満足の雰囲気をかもし出している気がする。僕には、その人たちが本当に神様やお互いにより頼もうとしているようには感じられないんだ。その人たちの人生は順調に見える。アルコール依存症の者がそんな教会に行くと、自分は欠点だらけの落ちこぼれだとしか思えないんだ。」「アルコール依存症だからこそ、僕は神様なしで生きていけないとわかるんだよ。一日一日を生きるために神様により頼まなければならないんだ。」

ＡＡでは「やあ、僕はトムです。アルコール依存症で麻薬常習者です」と自己紹介します。自己紹介で自分の罪を告白することによって安心感が生まれ、初めて一つになり、神に向き合うことができるのです。教会ではこんな挨拶はできません。教会が罪人の集まりだったのは、初代教会と迫害されてすべてを剥がされた時だけでした。教会はすぐに賢い人、身分の高い人、正義感のある人たちが入って来て正しい教会、賢い教会、強い教会、金持ちの教会になってしまいました。安心して罪が告白できる、自分の弱い姿、本当の姿を出せる教会になるのはなかなか難しいと思いますが、せめて「自分は正しくなれなかった、罪人であり病人です」という自覚だけは失わないようにしたいと思います。

❸【まったく新しい世界が来た】

イエス様はこの後たとえ話で、新しい世界が始まったことを話されます。「**織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。新しい布切れが服を引き裂き、破れはいっそうひどくなるからだ。**」（16 節）新しい布は洗うと縮みますが、古い布はもう縮みません。この二つを縫い合わせて洗濯したら、新しい布が縮んで古い布を引き裂いてしまい、破れはひどくなります。

「**新しいぶどう酒を古い皮袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。**」（17 節）新しいぶどう酒は醗酵して膨張しますが、古い皮袋は固くなっていて伸びません。新しいぶどう酒を古い革袋に入れると、新しいぶどう酒が発酵して古い皮袋を破り、両者とも駄目になってしまいます。

キリストが来たということは、何か新しいものが古いものに継ぎ足されたという程度のものではないのです。まったく新しい世界が来たということなのです。罪人が一方的に赦される世界が来たのです。イエス様という新しいぶどう酒は、罪で悲しむ人・正しさを放棄した人たちの中に入ったのです。彼らが新しい入れ物になったのです。

●吉田慎一郎さんは売れないクリスチャンのミュージシャンでした。30 歳の時仕事がなくなり訪問入浴介護のアルバイトのチラシを見て、面接に行き話を聞きますが、自分には向いていないなと思います。その週に、知的ハンディをもつ仲間と夏のキャンプに行きます。その晩、入浴の時間になって、知的ハンディをもった仲間の一人である野村さんから「吉田さん、あなたにお風呂に入れてもらいたい」と頼まれます。「一緒に来たスタッフに入れてもらった方が慣れていていいんじゃあない」と答えますが、野村さんは「吉田さんに入れてもらいたい」と言い張るので、一緒に入りました。彼の背中を流しながら、その時何とも言えない熱い思いがこみ上げます。「イエス様、そういうことですか」と思い、次の日、彼は髭をそり、訪問入浴介護の体験に行きました。７年後、彼は介護のケアマネージャーとしてどっぷり介護の仕事に浸かっていました。

私は知的ハンディをもった野村さんがイエス様に見えました。「吉田さんに入れてもらいたい」という野村さんの言葉を、イエス様の言葉として彼は聞いたという事でしょう。今までは神様は立派な人、戒めを守る正しい、清い人を用いると思っていました。しかしその時代は終わりました。イエス様は罪人の中に住むのを喜び、罪人を道具として用いられるのです。そういう時代が始まったのです。「**神がまず私たちを愛して下さったからです。**」（Ｉヨハネ 4：19）とはそういう意味です。キリストが変えられたのです。日々罪を犯す、汚れた私の中に入られるキリストに驚きます。そして今日も私に「あなたにしてもらいたい」と言われるのです。そのキリストの愛が私を変えて行くのです。